

のすみにをくなり、又はしを取て膳にすみかけておきあつか物參り候へば、右の手にてわんを取、左の手に取渡し、右の手をそへて、あつか物をうけ、右の手にて麥粉を膳の右のさきのすみに押よせ、汁わんを膳の中に置て、こせう紙を右の手にて取て、こせうを汁に入、膳の下座のかたの下にをく、足付なれば足付の下へ押いる、其後はしを取こせうをかきませ、わんには手もかけずして、あつむぎを入、又わんを持あげてくう也、麥おしきのむぎみなに成候へば、右の手にはし取なをし、麥粉を取て前の方にもをく、前の方せばく候へば、膳のさきにならべてもをく也、麥粉の下一つになりたる時、さいしん参りたる時、いま喰たるおしきをば、さいしんあけたる人取てかへり候、今度は又、膳の左のさきのもりこを、汁に入てかきませ、麥を入れてくう也、扱又肴参り候へば、膳を下座へ押くだし、はしをおさめ候、いづれもさかな参り候て、はしを取て右の手にて肴の汁を取、左右の手にて取汁をすふ也、扱汁のみをくいて、又汁をすふて皿をば膳にをくべく候、其時がならずさしみあるべしくい候は、さしみをす鹽にひたしてくふなり、たとひくはず候共、さしみをす鹽につけてをく也、扱はしを又以前のやうに膳にすみかけてをき、御酒の事前のごとし、又さかな取時は、はしをおさめ候也。

索麺名物

〔毛吹草〕山城 大徳寺蒸素麺 武藏 久我素麺 越前 丸岡素麺 能登 和島素麺
備前 岡山素麺 長門 長府素麺 伊豫 松山素麺

〔雍州府志六土産〕索麺 諸國之名產雖有數品、洛陽舟橋并堺町二條北麵家之製造、非他邦之所及、是稱地索麺因京師土地之造釀也。

〔明和新增〕京羽二重大全〔三〕索麺所

堺町夷川之角
鳥丸松原上ル町

井筒屋播磨大掾

山形屋仁右衛門